

刊行物

書名： 『第 4 回日韓学生宗教意識調査報告』
編著者／出版社： 井上順孝編集責任／國學院大學日本文化研究所
刊行年月： 平成 20（2008）年 2 月
体裁： B5 判 55 頁
概要：

本研究所プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」のメンバー、ならびに「宗教と社会」学会の「宗教意識調査プロジェクト」メンバーが中心となって実施された質問紙調査の報告書。1995 年以來 9 回目となる日本の学生意識調査（2007 年 4 月～6 月実施・全国 35 大学の学生 4,306 人の有効回答）、ならびに 1999 年以來 4 回目となる韓国の学生意識調査（2007 年 9 月～11 月、12 大学の学生 1,385 人の有効回答）の結果をまとめたものである。編集と刊行には、科学研究費補助金基盤研究（C）「宗教教育における情報リテラシーの日韓比較」が、本研究所プロジェクトとともに関わっている。

.....

書名： 『近世の好古家たち—光圀・君平・貞幹・種信—』
編著者／出版社： 國學院大學日本文化研究所編／雄山閣
刊行年月： 平成 20（2008）年 2 月
体裁： A5 判 246 頁
概要：

本書は、「近世学問を検証する—近代ヨーロッパ Archaeology 日本上陸以前の考古学的学問・国学者に光をあてる—」を統一テーマとして、日本文化研究所が 2004 年度より 2 年間にわたって実施した公開学術講演会と公開シンポジウム、および座談会「斎藤忠先生を囲んで 近世の好古家たち—日本考古学の基礎をきづいた人々—」をもとにして再構成したものである。近代欧米の文化の日本上陸以前に、日本独自の学問として古典研究や有職故実研究などによる自国文化の追及が着実に進行していた。ここでは、そうした活動を行っていた人物の中で特に、徳川光圀、蒲生君平、藤原貞幹、青柳種信の 4 人の好古家に焦点を当て、それぞれの研究内容や交流のあり方などについて検証がなされている。

.....

書名： 『写真資料デジタル化の手引き—保存と研究活用のために—』
編著者／出版社： 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所編／刊
刊行年月： 平成 20（2008）年 3 月
体裁： A5 判 82 頁
概要：

國學院大學日本文化研究所が文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（学術フロンティア推進事業）の選定を受けて実施したプロジェクト「劣化画像の再生活用と資料化に関

する基礎的研究」を通じて8年間にわたり培ってきた、写真資料の整理・アーカイビング、デジタル化、データベース化における方針策定と作業実務のノウハウを一冊にまとめたもの。

目次構成は、「第1章 人文科学と写真資料の活用」「第2章 写真資料整理・デジタル化の基本方針」「第3章 整理・デジタル化と保存措置の手順」「第4章 公開と管理」「第5章 作業スキルの構築と伝承」となっている。

書名： 『國學院大學日本文化研究所紀要 総目次・本文』(DVD)

編著者／出版社： 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所編／刊

刊行年月： 平成20(2008)年3月

体裁： DVD1枚

概要：

2005年に日本文化研究所が設立50周年を迎えた記念事業の一環として作成されたDVDで、『國學院大學日本文化研究所紀要』第1輯(1957)～第100輯(2008)の総目次と全本文が、PDFとして電子化され、一枚に収められている。収録にあたっては、誤字脱字等の訂正を行い、またPDFファイルは、すべて透明テキスト化し、検索可能なものとした。

書名： 『國學院大學日本文化研究所50年誌』

編著者／出版社： 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所編／刊

刊行年月： 平成20(2008)年3月

体裁： A5判 347頁

概要：

日本文化研究所は、1955年に設立され、2005年に50周年を迎えた。本書はその設立50周年記念事業の一環として、設立から2006年度までの研究所の活動について包括的に記録した書物である。「第1章 沿革」「第2章 事業・プロジェクト」「第3章 講演会・講座」「第4章 刊行物一覧」「第5章 紀要・所報目次」「第6章 略年表」という構成である。いずれも設立当初からの情報を可能なかぎり集め、最近の成果はもとより、過去の研究所の活動についても具体的に知りうる基本資料となっている。

書名： 『國學院大學図書館所蔵 佐佐木高行家旧蔵書目録』

編著者／出版社： 國學院大學編／汲古書院

刊行年月： 平成20(2008)年3月

体裁： B5判 303頁

概要：

國學院大學図書館が所蔵する「佐佐木高行家旧蔵書」の目録。この編纂刊行については、日本文化研究所の総合プロジェクト「『梧陰文庫』を中心とする学術資産の構築と運用」の事業として、2005年度に同図書館との全面的提携のもと開始された。2007年度からは、研究開発推進機構 校史・学術資産研究センターにおいて事業が継続された。

書名： 『井上毅傳 史料篇 補遺 第二』

編著者／出版社： 國學院大學日本文化研究所編／東京大学出版会

刊行年月： 平成 20 (2008) 年 3 月
体裁： A5 判 372 頁
概要：

さきに完結した『井上毅伝史料篇』全 6 巻の補遺をなすもの。本書には、井上毅の意見書 24 点と、著作 25 点、校閲書 2 点が収められている。本書の編集は、2005 年度に日本文化研究所の総合プロジェクトとして発足した「『梧陰文庫』を中心とする学術資産の構築と運用」プロジェクト (2007 年度は研究開発推進機構 校史・学術資産研究センターにおいて続行) が担当した。

書名： 『万葉集 神事語辞典』

編著者／出版社： 辰巳正明・城崎陽子監修、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所編／國學院大學

刊行年月 平成 20 (2008) 年 6 月

体裁： B5 判 273 頁

概要：

2005 年度から 3 年計画で行われた日本文化研究所兼担プロジェクト「万葉集における神事語彙の基礎的研究」(代表・辰巳正明) の成果として編まれた辞典。『万葉集』を中心とした古代文献にみえる神事に関わる語彙に、最新の知見を加えて解説を施したものである。80 人近くが各項目を分担執筆している。

書名： 『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」2009 年度研究報告書』

編著者／出版社： 井上順孝編集責任／國學院大學日本文化研究所刊

刊行年月： 平成 22 (2010) 年 1 月

体裁： B5 判 78 頁

概要：

本研究所のプロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」によって、2007・2008 年度に行われた研究成果の一部。宗教情報リサーチセンターとの共催で、2008 年 11 月 2 日に本学で行われた研究フォーラム「〈宗教情報〉とメディアリテラシー」、ならびに 2009 年 2 月 7 日に本学で行われた東アジア新宗教国際研究会議「東アジア新宗教研究と情報リテラシー」の報告が、収められている。また、4,306 の有効回答を分析した、井上順孝「学生の宗教意識の変化—2007 年度のアンケート調査を基本とした比較—」も収録されている。

書名： 『国際研究フォーラム「映画の中の宗教文化」報告書』

編著者／出版社： 井上順孝編集責任／科学研究費補助金基盤研究 (A)「大学における宗教文化教育の実質化を図るシステム構築」第 2 グループ

刊行年月： 平成 22 (2010) 年 2 月

体裁： B5 判 98 頁

概要：

日本文化研究所と科学研究費補助金基盤研究 (A)「大学における宗教文化教育の実質化

を図るシステム構築」の主催によって、2009年9月20日に本学で開催された国際研究フォーラム「映画の中の宗教文化」の報告が収められている。趣旨説明から第1～5セッション、そして総合討議まで当日の生の議論をなるべく再現することを念頭に置いて編集し、また巻末に議論の中で言及された映画の一覧を付した。

書名： 『第10回学生宗教意識調査報告』

編著者／出版社： 井上順孝編集責任／國學院大學日本文化研究所

刊行年月： 平成23（2011）年2月

体裁： B5判 29頁

概要：

本研究所プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」のメンバー、ならびに「宗教と社会」学会の「宗教意識調査プロジェクト」メンバーが中心となって実施された質問紙調査の報告書。1995年以来10回目となる本調査は、2010年4月～6月に行われ、全国37大学の学生4,311人の有効回答を得た。「パワースポットの存在を信じるか」「散骨や自然葬を希望するか」「大学において「カルト対策」の教育が必要か」といった新たな設問も設けられている。編集と刊行には、科学研究費基盤研究（A）「大学における宗教文化教育の実質化を図るシステム構築」も本研究所プロジェクトとともに関わっている。

書名： 『第11回学生宗教意識調査報告』

編著者／出版社： 井上順孝編集責任／國學院大學日本文化研究所

刊行年月： 平成25（2013）年1月

体裁： B5判 30頁

概要：

本研究所プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」のメンバー、ならびに「宗教と社会」学会の「宗教意識調査プロジェクト」メンバーが中心となって実施された質問紙調査の報告書。1995年以来11回目となる本調査は、2012年4月～6月に行われ、全国30大学の学生4,094人の有効回答を得た。2011年3月の東日本大震災を受け、災害時の宗教・宗教家の役割や、震災による意識の変化などの問いが新設された。イスラームへの関心や関わりなどを問う設問は、2005年度の第8回調査以来、2回目となっている。編集と刊行には、科学研究費補助金基盤研究（B）「宗教文化教育の教材に関する総合研究」も本研究所プロジェクトとともに関わっている。

書名： 『21世紀の宗教研究—脳科学・進化生物学と宗教学の接点—』

編著者／出版社： 井上順孝編／平凡社

刊行年月： 平成26（2014）年8月

体裁： B6判 215頁

概要：

2013年9月6日に國學院大學常磐松ホールで開催された公開学術講演会をもとに編集されたもの。講演会は日本宗教学会と國學院大學日本文化研究所の共催で行われたもので、テーマは「ネットワークする宗教研究」であった。講師は、ハーバード大学教授で比較神話学者

のマイケル・ヴィツェル氏、総合研究大学院大学教授で生物学者の長谷川真理子氏、京都大学教授でキリスト教神学の研究者である芦名定道氏の3人である。それぞれの講演をもとにした論文に、講演会を企画し司会を務めた井上順孝が書き下ろしを加え、以下のような構成となった。「宗教研究の新しいフォーメーション」(井上順孝)、「神話の「出アフリカ」—比較神話学が探る神話のはじまり—」(マイケル・ヴィツェル)、「進化生物学からみた宗教的概念の心的基盤」(長谷川真理子)、「脳神経科学と宗教研究ネットワークの行方」(芦名定道)。

書名： 韓国語版『神道事典（縮刷版）』

編著者／出版社： 井上順孝編・李和珍訳／國學院大學日本文化研究所

刊行年月： 平成 27 (2015) 年 2 月

体裁： B5判 282頁

概要：

國學院大學日本文化研究所編『神道事典（縮刷版）』（弘文堂、1999年）の第4章「神社」と第8章「流派・教団と人物」の韓国語訳である。研究員の李和珍が翻訳し、ソウルにある成均館大学の研究員である林泰弘氏に校閲してもらったもの。韓国語に音訳しただけでは分かりづらい用語については日本語を付した。なお、本書と同じ内容は國學院大學デジタル・ミュージアムのなかにも収蔵されており、オンラインでも利用できる。

書名： 『国際研究フォーラム報告書 2008～2013年度』

編著者／出版社： 井上順孝発行・平藤喜久子編集担当／國學院大學日本文化研究所

刊行年月： 平成 27 (2015) 年 2 月

体裁： B5判 80頁

概要：

日本文化研究所が毎年開催している国際研究フォーラムのうち、以下の回の内容・議論を記録した報告書。2008年度「ウェブ経由の神道・日本宗教—インターネット時代の宗教文化教育のゆくえ—」、2010年度「イスラームと向かい合う日本社会」、2011年度「デジタル映像時代の宗教文化教育—開かれたネットワークによる取り組み—」、2012年度「宗教文化教育の射程—文学と美術をめぐる—」、2013年度「日常生活と宗教文化—戒律をめぐる問題を中心に—」。発題者や内容は多岐にわたるが、宗教文化教育の推進・デジタル情報技術の活用・さまざまな専門家との開かれたネットワーク構築といった問題意識については一貫している。

署名： 『第12回学生宗教意識調査報告』

編著者／出版社： 井上順孝編集責任／國學院大學日本文化研究所

刊行年月： 平成 27 (2015) 年 12 月

体裁： B5判 31頁

概要：

2015年4月から6月にかけて全国36の大学で実施された第12回の学生宗教意識調査の結果をまとめた報告書である。國學院大學日本文化研究所プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」と「宗教と社会」学会の「宗教意識調査プロジェクト」

のメンバーが中心になって行われた。同調査は1995年に第1回が実施され、今回で最後となる。有効回答数は5,773であった。第1回より継続的になされている学生およびその両親の信仰の有無、宗教への関心度合いといった基本的調査項目の他、オウム真理教に対する関心やイスラム教の認知度など現時点で重要と思われる調査項目が合計20ある。

書名： *Encyclopedia of Shinto Chronological Supplement*
編著者／出版社： チャールズ・フレレー訳／國學院大學日本文化研究所
刊行年月： 平成28(2016)年1月
体裁： A5判 314頁
概要：

日本文化研究所ではかねてより『神道事典(縮刷版)』(國學院大學日本文化研究所編、1999年、弘文堂)の英語版である*Encyclopedia of Shinto*をウェブ上で公開しているが、同事典の付録として作成された「年表」(764-830頁、作成：井上順孝・並木和子)についても英訳を実施した。2014年9月に先行して國學院大學デジタル・ミュージアム内のEOSサイトにて電子ファイルを公開していたが、利用者の便を考慮し、修正を加えた上で紙媒体として刊行した。なお、紙媒体のもととなった改訂版の電子ファイルも同様にウェブ上で公開されている。

書名： 『〈日本文化〉はどこにあるか』
編著者／出版社： 國學院大學日本文化研究所編・井上順孝責任編集／春秋社
刊行年月： 平成28(2016)年8月
体裁： B6判 232頁
概要：

2015年10月24日・25日に、日本文化研究所の設立60周年を記念して國學院大學常磐松ホールにて行われた公開学術講演会・国際研究フォーラムでの議論を下敷きとした論集。目次は、「はじめに 複雑な渦の中にある〈日本文化〉」(井上順孝)、「DNAで読む日本人の形成史」(篠田謙一)、「神仏はなぜ人のかたちをしているのか—擬人観の認知科学—」(スチュアート・E・ガスリー(藤井修平訳))、「アフォーダンスと生態学的倫理の構築」(河野哲也)、「ローカルな生活世界から見える現代日本—人類学者の視点から—」(ウィリアム・W・ケリー(加藤久子訳))、「現代日本宗教のリバースエンジニアリング—今を観察することから始める—」(井上順孝)からなる。